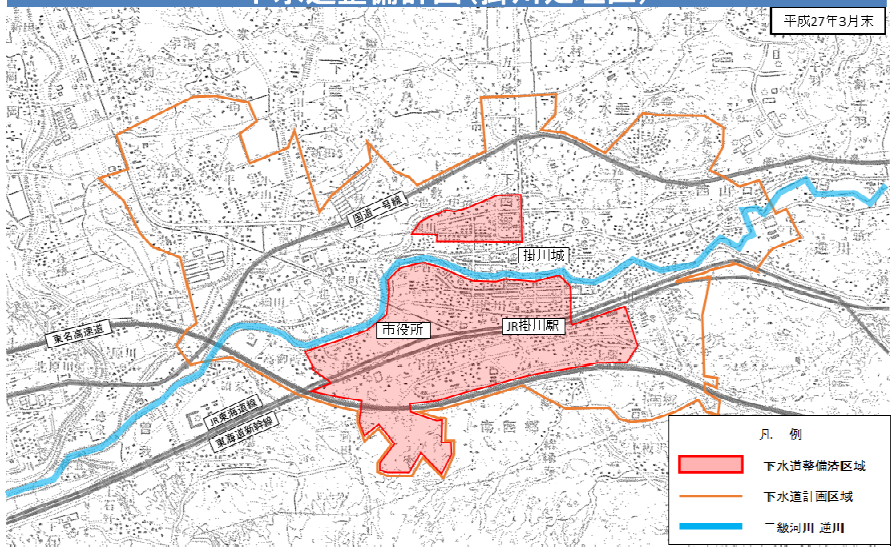
水質改善で鮎の天然遡上が復活！

静岡県掛川市

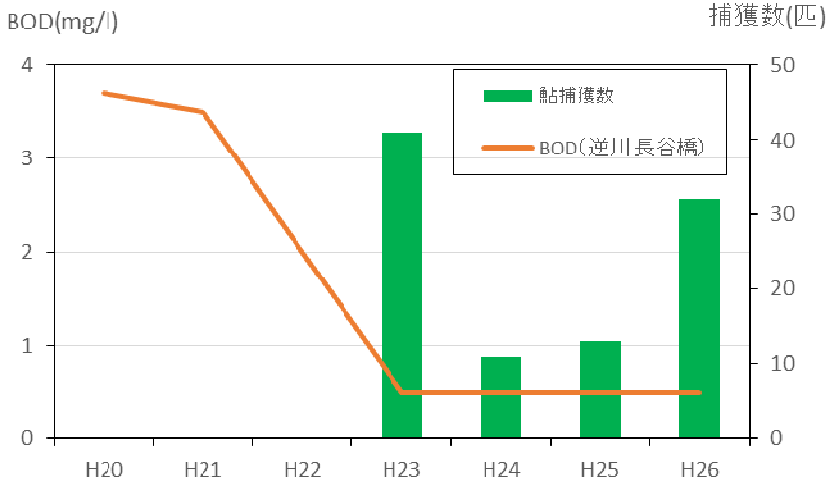
〇生活排水等の流入で水質汚濁が進行していた逆川は、**下水道の普及に伴い水質が改善**
〇H23年から鮎の天然遡上が復活、**水質改善のシンボル**となり、市民の水質浄化に対する意識が向上
〇下水道・遊歩道整備の効果により、逆川周遊道路は**多くの市民が利用する交流・歩行空間**として定着

下水道整備計画（掛川処理区）



アユの捕獲数が増加

水質改善の影響で鮎が天然遡上している事を確認



※指標は、山麓橋上流における5月～9月のアユ捕獲数
（出典:H26掛川市自然環境調査）

検証 三つの『目標』 フォーカス 掛川市予算案 〈上〉

環境

水質改善 逆川にアユ

掛川市中心部を流れる逆川が蘇り、水質が改善したことで遡年、明るい話題が持ち上がっている。清流に生息するアユが夏から秋にかけ、群れをなして悠然と泳ぐ。多いときには100匹以上。掛川城付近の市街地でも、市民がたびたび魚影を目撃している。地元漁協などによると、逆川水系にアユの放流はしていない。なぜ、天然遡上（そじょう）の可能性が高いという。

市は逆川でアユが見られる原因について、数年前から取り組む逆川上流域での合併浄化槽設置や農業集落排水事業で、川への汚水の流れ込みが減り、水質が改善したことを挙げている。

市民からの要望を受け、市は年度ごとにアユの遡上調査に乗り出す。目撃情報が相次いでいる逆川と倉真川で、5月と9月の2度、市内の環境調査会に依頼し、魚を捕まえて生息域を正確に把握する。初年度の予算は22万円ほどだが、調査結果は市民にもとめ、市民に観察する。

環境先進都市のシンボルには、ソーラーパネルを屋根に載せた家庭がだけでなく、城下町の清流を泳ぐ香魚も大く似つ。逆川を見つめる佐藤さんは「毎年、街の中でアユがきれいになったら誇れる。水質維持を期待している。」

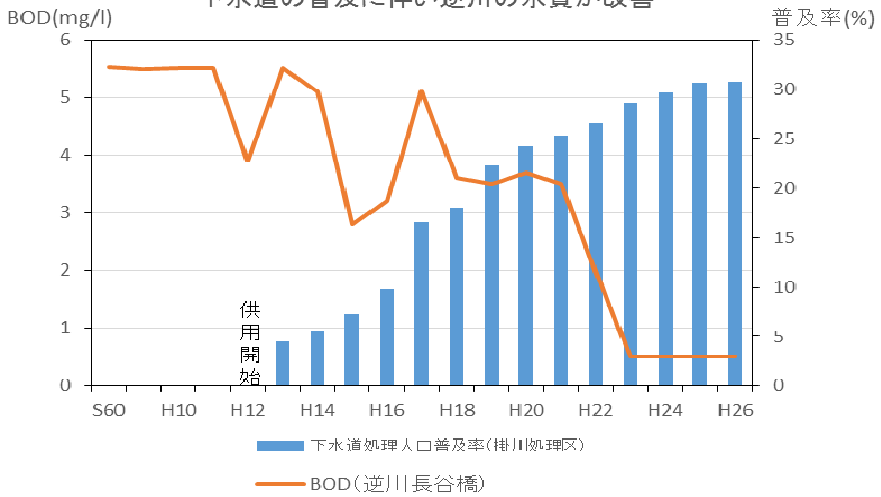
◇

松井市長がマニフェストに掲げて3年目となる「三つの目標（まちづくり）」の成果と課題を当初予算案から検証する。

近年水質が改善されているという市中心部を流れる逆川＝掛川市内

静岡新聞

平成23年（2011年）2月25日（金曜日）朝刊
静岡新聞社編集局調査部許諾済み

下水道普及処理人口と水質改善の効果

下水道の普及に伴い逆川の水質が改善